

“宇宙を視座に大人が変わる 子どもが輝く 美しい星が生まれる”【子どもと宇宙と未来をつなぐ】

コロナ禍の中で

会長 並木 道義

昨年 12 月頃中国の武漢から始まったとみられる新型コロナウイルスがこれほど世界中に蔓延するとは予想していませんでした。このようなコロナ禍において KU-MA の重要な事業である「宇宙の学校」等は感染拡大の防止の観点から、今年度は「宇宙の学校」の対面での活動の中止を各主催者の方へお願いいたしました。

この結果、本会の収益は大幅に減少することになりその対応や KU-MA 事業を楽しみにしていた子ども向けに新たな事業に着手することになりました。具体的には、オンライン講座、電子決済の導入、スマホ対応のホームページの構築などをスタートさせました。10 月頃からはリモートによる家族向けオンライン講座「宇宙の教室」などを自主事業としてスタートしていきたいと考えています。

まだ、まだ、新型コロナの収束が見られません。会員各位におかれましては十分に健康には留意されお体ご自愛ください。私たちは、ポストコロナを見据えて従来の事業を見直し、新たな生活様式にマッチした新規事業を推進してまいります。会員の皆様のこれまで以上のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

「はやぶさ2」の現状と地球帰還後の拡張ミッション

「はやぶさ2」は昨年の 11 月 13 日に“リュウグウ”を出発、その後 4 機あるイオンエンジン起動試験を行い、12 月 3 日帰還フェーズ第 1 期イオンエンジンの運転を開始。2020 年 2 月 20 日に第 1 期終了。5 月 12 日に帰還フェーズ第 2 期となるイオンエンジンの運転を再開し、運転時間は 8 月 18 日時点であと 163 時間が必要です。9 月中旬には地球からの距離 3700 万 km となり、イオンエンジンによる地球帰還最終誘導修正を行い、10 月以降は科学推進系を使用した軌道微調整を行います。(下図参照) ©JAXA



8 月 6 日にはオーストラリア政府から、「はやぶさ2」のリエントリーカプセルの着陸許可が発行されオーストラリアでの回収も 12 月 6 日に確定しました。「はやぶさ2」は地球帰還後、カプセルを分離して、再び深宇宙へ飛び立つ軌道に乗る予定です。探査する小惑星は 1998KY26 で地球と火星の間を回るひとつで直径 30m というとても小さな天体であり、リュウグウと同じように、水や有機物を含む可能性があります。到着は 2031 年 7 月の予定で、太陽の回りを 11 周(100 億 km)する事になります。

- 太陽系長期航行技術の進展
- 高速自転小型小惑星探査の実現
- Planetary Defense に資する科学と技術の獲得が主な意義のようです。

(参考) 今後の地球と「はやぶさ2」との距離

1. 2020 年 8 月 28 日 (R-100) 5000 万 km
2. 2020 年 9 月 10 日 (R-87) 4000 万 km
3. 2020 年 9 月 26 日 (R71) 3000 万 km
4. 2020 年 10 月 16 日 (R-51) 2000 万 km
5. 2020 年 11 月 9 日 (R-27) 1000 万 km
6. 2020 年 12 月 6 日 (R-0) 地球帰還

